

スマトラトラにおける3回の繁殖行動の比較

よこはま動物園 ○石和田研二

よこはま動物園では、1999年の開園当初からスマトラトラ (*Panthera tigris sumatrae*) を飼育している。その後国際血統管理計画 (GSMP) のもと、2011年にメス。翌年にオスを海外から新たに導入した。

2012年11月23日よりメスの発情に合わせ、同居を実施してきたが、交尾には至らなかった。2014年4月の同居の際、初めて交尾が確認され、2016年及び2019年にも交尾が確認された。交尾の回数は2014年が数回/日。2016年及び2019年は、それぞれ数十回/日であった。

発情に併せて同居を実施したが、出産後のメス個体における発情行動に変化が見られ、出産前まで定期的に見られた行動は発現されなくなった。それでも、2014年の出産後は、顕著な発情行動見られたので、そこで同居を行い交尾に至った。この期間は、発情ホルモン (糞中エストラジオール) の測定も実施したが、数値上は発情が回っていた。2016年の出産後は、ますます分かりにくくなり、それらしい行動が認められても、乗駕に至らなかった場合と、交尾に至った場合があった。また発情期以外の同居でも、それまでは闘争になることが多かったのに、乗駕が認められるようになった。

この3シーズンの交尾のうち、2014年に2頭、2016年に3頭の繁殖に成功した。2019年にも妊娠の可能性が示唆されたが、妊娠には至らなかった。

当園では横浜市繁殖センターとの協力関係のもと、妊娠中のメスの糞中ホルモンの計測も実施しているため、3シーズンの交尾後の測定結果について比較したところ、いずれも交尾後、1週間以内にはステロイドホルモンのプロジェステロンの変化により、交尾後の排卵が確認された。妊娠した2回の例では、妊娠維持状態及び出産に伴う急激な減少が確認できた。